

# 『米中もし戦わば』

## 戦争の地政学

— 防衛省現役組が今読んでいる本 —

「北朝鮮問題」がなかなか解決に向かわないが、それはなぜなのか？

習近平永久国家主席を一応は秘密裏に訪問した北朝鮮の刈上げクン。

何やらぎこちなげな中国の要人や習近平国家主席との歓談風景の映像が送られてきたが、中国側が撮った映像と北朝鮮側が撮った映像が若干違っていったようだ。

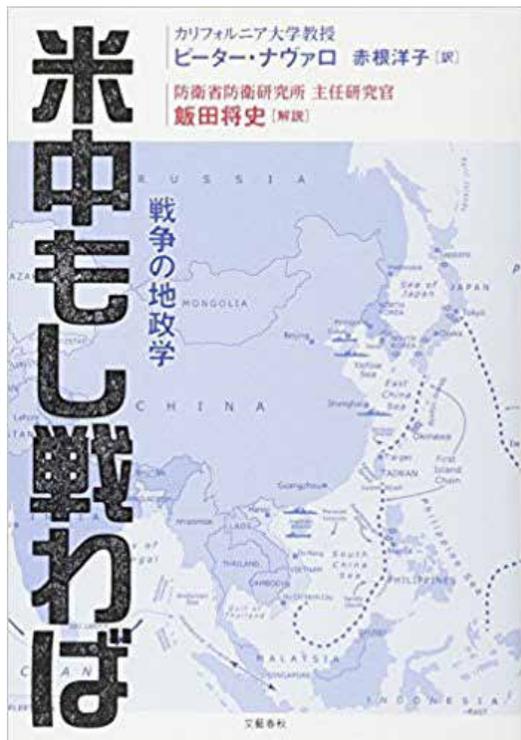
まあ、互いに自国内向けの「メッセージビデオ」を撮っているようなもの。

---

### 相変わらず威勢の良い トランプ大統領

---

アメリカのトランプ大統領は「核開発を中止せよ!」「アメリカに届くミサイル開発を放棄せよ!!」「トランプ大統領の側近の弱腰を首にした。今度の側近は容赦しないぞ!!!」と喚きたてながら中国の習近平国家主席に「北朝鮮を何とかしろ」と詰め寄っている。(笑える)



一人日本の安倍晋三首相だけが「詐欺師の森友と野党の仲間達に」足を引っ張られた形で蚊帳の外。

本当に日本の野党は腐りきっている。

日本の国益に反することばかりやる野党議員など必要なのか。(不健全野党は必要ない)

日本の財務相の高級官僚は公文書を改竄するし、破廉恥な文科省の高級官僚は天下りの幹旋をする。足しげく新宿の出会い系バーに通ってはいやらしいことを堪能し、「貧困シングルマザーの実態調査をしていた」と苦しい自己弁護。

野党が「安倍やめろ」と国会のまえで騒いでいた時にこっそりと文科省事務次官が反政府集会に参加していた、とカミングアウト。

「一体何を考えているのか」元事務次官殿。日本の国会はおかしな具合になっている。

## 『米中もし戦わば』戦争の地政学

トランプ大統領の大統領補佐官で、国家通商会議議長のピーター・ナヴァロ氏

が書いた本の題名です。

その本の中の148ページに、「なぜ中国は北朝鮮を支援しつづけるのか？」という小見出しがある。

北朝鮮経済が常に危機的状態にある・・・ソ連が崩壊したように北朝鮮がいまだに崩壊しないのは中国が北朝鮮のエネルギーの90%、食料の45%を供給してい



るからです、とある。

ではなぜ中国は自国を核戦争に巻き込むかもしれない北朝鮮の金正恩政権のテコ入れをするのか？

中国が明らかに恐れているのは、北朝鮮が崩壊した場合、西ドイツが東ドイツを吸収したのと同じように、朝鮮半島が統一したならば

- ①朝鮮半島は民主的な米韓同盟側につくに違いないと思っている。
- ②中国は北朝鮮を「経済的植民地」だと考えている。

北朝鮮に投資する中国企業が増えていて、中国企業は北朝鮮北部の鉱物資源開発に巨額の投資をしている。

政治レベルでは北朝鮮は数十年にわた

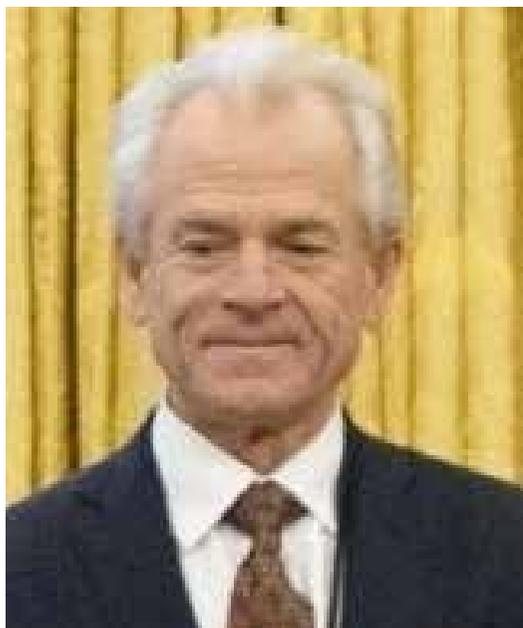
り重要な「交渉の切り札」として中国の役に立ってきた。

北朝鮮が「ミサイルを発射」したり「核実験」をするたびに、愚かなアメリカは中国が「だだっ子」北朝鮮をおとなしくしてくれるだろう、と期待し中国を頼るからです。

不安定の度合いを増してゆく北朝鮮を中国が支援し続けるのはなぜか？

- ③60年以上前の朝鮮戦争でアメリカを中心にした国連軍と中朝軍との戦争で中朝の兵士100万人以上が「アメリカ帝国主義」(米帝)に殺された、という思いが中朝の「絆」となっている。

左翼系の新聞や左翼系のテレビコメンテーターは未だに「会話だ」「和解だ」と



アメリカ合衆国国家通商会議議長  
ピーター・ナヴァロ氏



アメリカ合衆国前大統領 バラク・オバマ氏

やっているがその時間稼ぎの間に北朝鮮は「核」と「ミサイル」の開発を続けるし、中国はさっぱり動かない。

アメリカのトランプ大統領の「犬の遠吠え」ではさっぱり効果がない。

以前にワイズが指摘しているように『実行力なき軍隊はオモチャの兵隊』なのである。いわば「やるやる詐欺師、トランプ大統領」なのであり腰抜け大統領のオバマ氏と大差はない。

330ページに《「強い経済」「優れた教育制度」「安定した政治体制」「豊富な天然資源」「優秀な労働力」を持っていても「軍事力」を持たない国は悪意を持った軍事大国に対して完全に無防備で、したがって、たやすくその餌食になる。》とある。

アメリカン・エンタープライズ研究所

のダン・ブルーメンタル氏は「思うに、これまでアメリカが戦争に巻き込まれたのは、他国に決断力と意志を疑問視されたときだった。この図式はアメリカが行った多くの戦争に当てはまると思う。だから、戦争を回避する最良の方法は、非常に強力な軍隊をもち、非常に強力な同盟関係構築することによって、潜在敵国に、『両国間の論争の原因が何であれ、アメリカは本気だ。最後の手段として実際に武力を用いるだろう』と信じさせておくことだと思う。」

また、新アメリカ安全保障センターのパトリック・クローニン氏は「アメリカはルールを守らせる能力がない、とアジア諸国は感じている。これが現在の世界なのだ。それは、誰がルールを守らせるの



か明確でない世界だ。それは、誰がルールを決めるのか分からなくなったとき、何が起きるだろう。誰もが勝手にルールを作るだろう」。

332ページ 経済力による平和

- ◆中国は、通貨操作、違法な輸出補助金、知的財産権侵害、自国の製造基盤を強化し輸出主導型経済成長を促進するための自国市場の保護など、数々の不公正な貿易方法に頼っている。
- ◆経済成長と強力な製造基盤が中国に、軍事力の強化及び近代化のための豊かな資源をもたらした。
- ◆中国は、その優勢な経済力を武器に、貿易や領土問題などさまざまな問題で日本、フィリピン、台湾、ベトナムなどの近隣アジア諸国を威圧してきた。
- ◆2001年に中国がWTOに加盟し、アメリカ市場に自由に参入できるようになって以来、アメリカは7万か所以上の製造工場を失い、経済成長率は半分以下に縮小した。



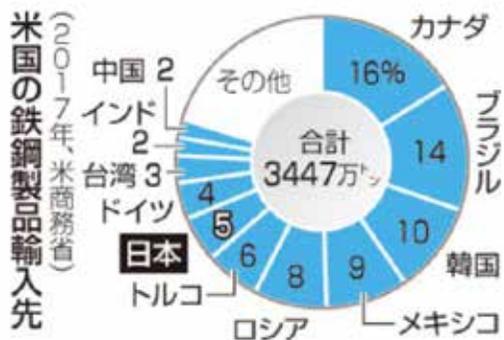
◆経済成長の減速と製造基盤の弱体化により、アメリカにとって、自国の安全保障を確実にするとともにアジア同盟諸国への条約義務を遂行するに足る軍事力の規模と質を維持することは次第に困難になりつつある。

アメリカの国家安全保障とアジアの平和のために取るべき方法は明らかに、中国製品への依存度を減らすことだ、と思われる。

このような方法で中国との貿易関係の「リバランス」を図れば、中国经济とその軍拡は減速するだろう。

さらに、アメリカとその同盟国が強力な経済成長と製造基盤を取り戻し、総合国力を向上させることもできる。

シカゴ大学のジョン・ミアシャイマー教授は「現在、中国を恐ろしい存在にしているのは、膨大な人口を抱える中国が、巨大な香港と化すのではと危惧されるほど豊かな国になりつつあるという事実である。そして、一人当たりのGNPが香港のGNPに近くなれば、中国は手強い軍



事大国になるだろう。したがって、ずっと魅力的な戦略は、中国の経済成長を減速させる方策を積極的に打ち出すことである。経済が成長しなければ、中国は富を軍事力に変換することもできないし、アジアにおける潜在的覇権国になることもできない」という。

自由貿易をこれまでずっと信奉してきたアメリカ人、特に右派は、「保護主義」と見なされかねない政策を支持することには後ろ向きなのである。

しかし、米中委員会メンバーで共和党支持者のダン・スイレン氏は「防衛関税」政策を支持して「アメリカの景気は後退している。それは対中貿易赤字を放置しているからだ。…貿易赤字を解消し製造業を復活させなければ国内に大きな経済問題を抱えることになるだろう。」と述べている。

**はっきりとさせておかなければならない事実がある。**それは中国製品を買うたびに、アメリカ国民だけでなく、インド、日本、フィリピン、シンガポール、韓国、台湾といった、中国との間に問題を抱え

ている国々の国民は自分と自分の国に危害を加えようとしているかもしれない中国の軍事力増強に手を貸しているのだ、という事実である。

この重大な点を踏まえ、米中委員会の元メンバー、パット・ムロイ氏はアメリカのアジア重視政策が軍事のみに偏っているのは大きな誤りだ、として、「大統領は、これからはアジア重視だ、という。それはなぜか？中国が台頭してきているからだ。それなら、なぜ中国はこれほど急速に台頭してきたのだろう。それは、アメリカが巨額の貿易赤字を抱え、投資と技術を急速に流出させているからだ。向こうの能力が強化されるにつれて、こちらの能力は弱体化している。だから、アジア重視には賛成だ。同盟諸国を安心させるため、(軍事の) 軸足をアジアに移そう。

だが、それなら、対中貿易のリバランスを図り、アメリカの消費者にこれ以上中国台頭の後押しをさせないようにする方がさらに理に適っているのではないだろうか。これが、アジア重視の真に懸命な方法だろう」

